

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270300405
法人名	医療法人 重真会
事業所名	医療法人重真会 グループホームまこと
訪問調査日	平成 20 年 11 月 12 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 2 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270300405
法人名	医療法人 重真会
事業所名	医療法人 重真会 グループホーム まこと
所在地 (電話番号)	長崎県島原市中野町丙30番地7 (電 話) 0957-63-5539

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年11月12日	評価確定日	平成21年2月2日

【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算	9.1 人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄骨鉄筋 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	— 円
敷 金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 850 円		

(4) 利用者の概要(平成 20年 4月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 72 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木下内科医院・森元歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いに、法人内の介護老人保健施設、医療機関と併設して位置している。管理者や職員は、全職員の意見をもとに作った理念のもと、利用者が地域の中でその人らしく暮らすことができるよう支援に努めている。
職員は、利用者の希望や意向の把握に努めるとともに、利用者から希望が出しやすい雰囲気づくりを心がけ、外出や入浴など、希望があったときにすぐに対応できるよう体制を整えている。
また、食事についても利用者の嗜好や希望を取り入れて献立を考えており、外食や東屋で昼食を摂るなど、食を楽しめる工夫にも多く取り組んでいる。近所の農家の方が届けてくれる季節の野菜を使って、食事からも季節を味わってもらおうとするなど、様々な工夫が見受けられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価からの課題について、話し合いを持ち、月1回の勉強会、研修の報告会など、改善への取り組みを実施している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に評価の意義や目的を理解してもらえるように説明し、3つのグループに分かれて、それぞれに意見を出し合い、自己評価をまとめあげた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、事業の取り組み状況や外部評価についての報告をしっかり行い、意見交換している。会議メンバーの交代があるが、会議での意見をより一層運営等に活かせるよう今後の取り組みを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会や行事、日常の面会時などに、家族の意見や要望等を聞くようにしているが、なかなか意見が出てこない現状となっている。今後、気軽に話しやすい関係づくりをしていくことを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の小中学生のボランティアの受け入れや子ども会の廃品回収に協力したり、ホームの行事に地域住民を招いたりして交流を図っている。また、近隣の農家の方から野菜を差し入れてもらうこともあり、地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員にアンケートをとり、その意見をもとに、地域の中でその人らしい生活を支えることを大切にするという理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングにおいて、管理者から理念について伝えるとともに、事業所内の各所に目に付きやすいように掲示し、意識付けできるようにしている。また、新任職員のオリエンテーション時には、必ず理念の理解を促すように話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小中学生のボランティアの受け入れや子ども会の廃品回収に協力したり、ホームの行事に地域住民を招いたりして交流を図っている。また、近隣の農家の方から野菜を差し入れてもらうこともあり、地元の人との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的などを全職員が理解できるように伝え、自己評価に取り組んでいる。また、前回の評価結果をもとに改善点などについて話し合い、取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業の取り組み状況や外部評価等についての報告、意見交換を行い、会議録を残している。	○	出席メンバーの交代により新たなメンバーが加わる予定なので、会議での意見交換をより活性化させ、運営等にさらに活かすことができるよう取り組みを期待したい。

長崎県 医療法人重真会 グループホームまこと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、市との連携においても窓口となってもらい、情報収集等に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員から、利用者の暮らしぶりや健康状態を書き添えて、定期的にホームだよりや写真を送付し近況を知らせている。また、利用者からも手紙を書いて、一緒に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、行事への参加時など積極的に声をかけ家族の意見を聞くようにしているが、なかなか意見が出されない状況となっている。家族会などでは、家族同士話し合う時間を設けている。	○	今後、気軽に話しができるような雰囲気づくりを大切に、日常的な会話の中から家族の思いや希望を読み取り、引き出せるように取り組むことを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との関係を大事に考え、法人内の異動はなるべく行わないようにしている。職員3人で1人の利用者の支援を担当するなど、やむを得ない退職や異動があった場合にも利用者に影響がないように配慮している。また、ユニットを越えて、利用者や職員の馴染みの関係が構築できるよう取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員については、2週間程度研修期間として、管理者や先輩職員による指導を行っている。また、月1回は勉強会を行い、ケアの振り返りの機会にもなっている。外部研修は、参加した職員から他の職員への報告を行い共通理解を図っている。口腔ケアの研修等での学びは、実践に活かしていくよう具体的な取り組みも行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連合が主催している認知症対応型共同生活介護事業所連絡協議会に参加し、他事業所の職員等と意見や情報の交換を行うなど、交流を図りながら、利用者の支援に役に立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の多くが同事業所の通所介護のサービスを利用していたこともあり、入居前から職員、他の利用者と顔見知りで、スムーズに入居できている。入居後も一定期間は利用者が落ち着けるように、家族等の頻繁な面会を依頼している。また、在宅時の生活習慣等を継続しながらホームでの生活ができるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は和気あいあいとした雰囲気で、一緒に干し柿を作ったり、炊事をしたりして、自然に利用者と職員がお互いに気遣いの言葉やお礼の言葉をかけ合っている。昼食後などには、一緒にトランプなどをしており、笑い声が聞こえてくるなど、ともに過ごし、支えあう関係が窺える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が今できることを大事にしており、それぞれの意向や希望を日々の支援の中で把握するよう努めている。また、買い物に行きたい、美容院もそろそろ行きたいなどと、利用者から言える雰囲気づくりを行っている。職員も、要望にすぐ応えられるように自然と動いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が作成したものをもとにカンファレンスで検討し、介護計画を作り上げている。職員は、利用者との関わりの中で、利用者の希望等の把握に努め、それぞれの状況等に即した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに定期的な見直しを行っている。また、利用者の状態等に変化が生じた時は、そのつど見直しを行い、現状に合わせた計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診などの外出において、車椅子を利用している場合でも、リフトのある車で支援するなどの体制を整えている。お墓参りや美容院の利用についても、希望に合わせて支援している。また、空室があるときは、通所利用者など緊急の受け入れなども柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が法人内の医療機関をかかりつけ医としており、受診等の支援を行っている。ほかの医療機関へも職員が送迎を行っており、他市への通院については、家族の協力を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を作成しており、入居時に説明を行っている。状況に合わせて、医師や看護師等専門職に相談し、職員間でカンファレンスを行い方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対して穏やかな態度で、丁寧な言葉かけを行っており、利用者のプライバシーを損ねることがないように対応している。	○	利用者の個別記録等のファイルについては、個人情報保護に配慮した管理を行いながら、家族への情報開示を行っていくよう方策を検討し、取り組むことを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めておらず、利用者が自由にその人らしい生活ができるよう支援しており、買い物や散歩、外食等の外出希望、食事や入浴の時間など、一人ひとりの自発的な行動や希望に合わせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事しており、準備や後片付けなど、利用者はそれぞれにできることを行っている。利用者の嗜好や希望を把握し、献立に取り入れており、利用者の会話からそのことが窺えた。外食をしたり、全員と一緒に料理をする日を設けたりして、食事を楽しめる工夫に努めている。また、東屋で昼食を摂ったり、近隣の人と一緒に広場でそうめん流しをするなど、様々な取り組みを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴日を設定しているが、利用者が入りたいと希望した時には毎日でも対応できるように体制を整えている。また、入浴を拒む利用者には、声かけ等工夫して入れるよう誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が、買い物、炊事、植物の世話、洗濯など、それぞれにできることを自然にできるように役割の支援を行っている。また、趣味等についても、併設の通所介護事業所等に出向き囲碁を楽しめるように配慮するなど、一人ひとりに合わせた支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブ、美容室、外食等、利用者から希望があれば、いつでも対応できるように支援している。また、朝は、玄関先の東屋までの散歩が日課となっており、日常的に外出できるような支援体制となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは建物の2階部分であり、利用者は、エレベーターや階段を利用して自由に出入りできるようになっている。声かけなく外出する場合は、職員が後ろからそつと付き添い見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内の施設同士協力体制を整え、年に2回は避難訓練等を行っており、地域の消防団の協力も得ている。地域住民より、災害時の避難場所として協力してほしいとの要望がっており、必要時は受け入れを行っていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士に、不定期ではあるが献立をチェックしてもらい、栄養のバランスに配慮している。自分から十分な水分補給をしない利用者には、好きな飲み物などで水分摂取できるよう工夫するなどして対応している。摂取量の記録も残しており、一人ひとりの状況を把握し、支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体に木のぬくもりが感じられ、広々とした共用空間の中で、利用者が思い思いに過ごせるように、ソファやコタツを配置している。ユニット間の仕切りがなく、自由に行き来することができ、窓からの眺めもよく、開放的で居心地のよい空間づくりに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室の入り口には、それぞれ異なる暖簾をかけている。折り紙を飾ったり、絵、写真など好きなものを飾っており、仏壇、たんす、いすなど、使い慣れたものも自宅から持ち込んで、それぞれに居心地のよい居室づくりを行っている。		